

産業人クラブだより

ーかけはしー

トップインタビュー



北日本金型工業社長
福島産業人クラブ

本会(旧日本金型工業)は、福島県会津若松市、0242-754-7311は、金型製造やプラスチック製品の成形、組立、進める中核企業という顔もみ立てが主力だ。同社は福

小椋 庄二氏

同工業会の会長を務める小椋庄二社長に今後の事業展開などについて聞いた。(福島支局長・阿部義秀)

会員企業を取り巻く景況は、「大手企業を中心に景況は、中小企業も活況を呈している。中にも変化している。小企業ではまだ実感に乏しいが、時期は遅れてもこの流れは波及していく。これまでも円高不況やリーマン・ショックなどの逆境を乗り越えてきた。中小企業も努力をすれば成長を維持できる。冬の時代がずっと続くとは思えない。高度成長期の勢いはないが、今も私たちの業界は日本のモノづくりを支える機関産業のひとつだ」

国際化などにより環境は、小化が進み設備も高精度化している。従来の仕事の手法や慣習に固執せず、ニーズの変化に対応した改革の実行が必須。単に工数を追うだけでは海外との競争には勝てない。歩留の向上やメンテナンス回数を減らす

現場改善で利益生む

金型製造 ニーズ対応、改革実行

に明るく見えてきた。中にも変化している。小企業ではまだ実感に乏しいが、時期は遅れてもこの流れは波及していく。これまでも円高不況やリーマン・ショックなどの逆境を乗り越えてきた。中小企業も努力をすれば成長を維持できる。冬の時代がずっと続くとは思えない。高度成長期の勢いはないが、今も私たちの業界は日本のモノづくりを支える機関産業のひとつだ」

国際化などにより環境は、小化が進み設備も高精度化している。従来の仕事の手法や慣習に固執せず、ニーズの変化に対応した改革の実行が必須。単に工数を追うだけでは海外との競争には勝てない。歩留の向上やメンテナンス回数を減らす

産業人伝

弊社は茨城県つくば市に本社があるが、社名は株式会社東京電機。つくばに東京と付くのは会社の生い立ちによる。

中学時代からラジオ少年

東京電機・塩谷智彦社長 ④

1920年に東京・下町の南千住で精米用小型モーター、小型車などの製造を目的に設立。その後、茨城の土浦に工場を建てた。戦時中は会社統制令で重電6社の管理体制に入り、軍管理工場となった。45年の東京大空襲で南千住の本社工場が焼失し、本社を土浦工場に移した。

戦後は陸用船用発電機やモーターの製作を手がけ、56年には南極観測船「宗谷」に発電機ほかの電気機器を納入した。現在、東京・台場の「船の科学館」に展示される宗谷の操舵室にある警報器は弊社製品である。

その後、業務拡大とともに大型機工場を新設、東証2部上場も果たした。



船の科学館に展示される南極観測船「宗谷」。56年には発電機など電気機器を納入した。

小さくても本物

「原料へのこだわり」が三島食品(広島市中区、三島豊社長、082-245-3211)の原点。自然に学ぶことを根本に据え「良い商品を良い売り方で」を経営指針としている。

この言葉通り、主力製品「ゆかり」の原料である赤シソの自家栽培と品種改良施設の設置に続き、自ら「青のり」の原材料となるスジアオノリの養殖に踏み切った。その名も「三島食品研究所 室戸海洋資源開発センター」。「少々仰々しいが、気合を入れて命名した」(三島社長、写真)。

施設は青のりの養殖、増産が目的。各地の産地の収穫が不安定の中、通年で原材料を安定確保できればコストの安定にもつながるといふ。さらに高い品質を保つために、高知県室戸市の海洋深層水を使い、高知大学の養殖特許技術を活用する。養殖所の名前を冠するにふさわしい一面も持つ。

「青のりは、香りと色が命。自社で

中国 三島食品 原料にこだわり



原材料を納得のいくレベルまで品質改良できれば、商品もさらに高品質になる。企業として大きなアドバンテージを得られる」(同)と期待する。わが国でも数少ない陸上での海産物養殖施設だけに、海上よりも生産コントロールは容易という。

海洋深層水というミネラルをたっぷり含んだ「室戸ブランド青のり」の発売も近い。

トピックス

栃木産業人クラブ会員のダイサン(栃木県足利市、小瀬大蔵社長、0284-63-2287)では、物流・生産現場の移動作業を容易にする樹脂製ボード「スライダースライド」シリーズの販売が好調だ。2015年3月には強度を高めて、重さ1トンの物品でも楽に移動できる「改良版」を導入。今後、売り込みを本格化する。

「40センチコンテナやトラックの荷台向けを望むユーザーニーズを受けて、改良に改良を重ねた」と小瀬社長は力を込める。最大サイズは幅40センチ×長さ100センチ×厚さ3.8センチで、標準価格1万1500円(消費税抜き)だ。先端がR形状に持ち上げられるようにロープを通す穴を付けて、約30センチの段差での移動にも対応する。船底型は同1万2000円(同)。

いずれも運びたい荷物の下に敷いて使う。潤滑性の高いポリアセタール製で、メッシュ状などに独自成形

栃木 ダイサン スライダーボード改良

乗用車で1トンの金型を引っ張ることも、スライダーボードを敷いていけば容易に動かせる



することで表面の接触面積を少なくし、摩擦抵抗を極限まで抑制した。このため物品は動かしやすく、人は乗っても滑りにくい。「押す・回す・引く」といった移動作業と設置が容易になり、作業者の腰痛予防にもつながる」(小瀬社長)。

同社はプラスチック金型・製品の設計、製作を手がける。スライダーボードの第1号は約10年前に発売。サイズや種類を豊富にそろえて、累計9000枚程度の販売実績を持つ。各種発明や特許取得、意匠や商標の登録などに力を入れている。

5-6月の予定

【5月】

- 19日(火)大阪産業人クラブ「平成27年度総会」(大阪市都島区、太閤園)
- 21日(木)東京産業人クラブ、神奈川産業人クラブ共催「親睦ゴルフ大会」(横浜市旭区、戸塚カントリー倶楽部)
- 26日(火)名古屋産業人クラブ「スギヤス本社工場見学会」(愛知県高浜市)
- 27日(水)東京産業人クラブ・東京マネジメント研究会「平成27年度定時総会」(東京都墨田区、第一ホテル両国)
- 28日(木)東京産業人クラブ「2015年第一回勉強会」(東京都中央区、日刊工業新聞社・地下第一セミナールーム)
- 29日(金)城北産業人クラブ「平成27年度定時総会」(東京都豊島区、東京芸術劇場、東京都豊島区)

【6月】

- 2日(火)埼玉産業人クラブ分科会「我が国の財政の現状と課題について」講師/片岡隆一財務省大臣官房参事官(さいたま市浦和区、日刊工業新聞社)

社会貢献のモノづくりを

名古屋産業人クラブ 理事会・定時総会を開く



名古屋産業人クラブは、年ぶりに2万円を超すなど明るい話題が多い。たまたま中小企業を取り巻く環境はまだ厳しい。経営者は、景気上昇に浮かれず足場を固めて挑戦を続けてほしい」と呼びかけ、さらに「たまたま」を作っているのではなく、社会に貢献するという哲学を持っている」と強調した。

総会では14年度の活動実績や決算を報告した。さらに15年度の事業計画、収支計画について審議し、いずれも原案通り承認された。

中小・地方活性化の主役

橋本(経済学)名誉教授が講演

名古屋産業人クラブは、4月22日、橋本久義教授(名古屋大学名誉教授)を招き、名鉄ニッポンホール(名古屋市中村区)で講演会「中小・地方活性化の主役」を開催した。130人が参加した。

橋本名誉教授は、原油安も日本経済にとっては神風だ。2020年の東京オリンピックを契機に、中小企業の底力が発揮されることを期待している。

半導体製造工程学

高純度化学研究を見学



製造工程全般を見学。会員の企業、大学などから13人が参加した。冒頭に、地産高純度化学研究センターの副所長(佐藤達夫)が挨拶した。約5年前に新設した5階建ての同工場に於ける半導体材料や各種無機材料などの研究開発の様子を見学した。約5年前に新設した5階建ての同工場に於ける半導体材料や各種無機材料などの研究開発の様子を見学した。

小原氏記念講演

12年間振り返る



埼玉産業人クラブ・埼玉ビジネス研究会、埼玉経済会、小原重雄氏(元埼玉産業人クラブ会長)が、12年間振り返る講演を行った。講演では、小原氏が会長を務めた12年間の活動実績や、今後の展望について話した。

新入会員

神奈川産業人クラブ 藤本 省氏 キリ

名古屋産業人クラブ 後藤 保正氏 日本

大阪産業人クラブ 市熱田 五郎 造会長

東京産業人クラブ 市熱田 五郎 造会長

埼玉産業人クラブ 市熱田 五郎 造会長

千葉産業人クラブ 市熱田 五郎 造会長

神奈川産業人クラブ 市熱田 五郎 造会長

名古屋産業人クラブ 市熱田 五郎 造会長

大阪産業人クラブ 市熱田 五郎 造会長

東京産業人クラブ 市熱田 五郎 造会長

埼玉産業人クラブ 市熱田 五郎 造会長

千葉産業人クラブ 市熱田 五郎 造会長

新入会員

神奈川産業人クラブ 市熱田 五郎 造会長

名古屋産業人クラブ 市熱田 五郎 造会長

大阪産業人クラブ 市熱田 五郎 造会長

東京産業人クラブ 市熱田 五郎 造会長

埼玉産業人クラブ 市熱田 五郎 造会長

千葉産業人クラブ 市熱田 五郎 造会長

神奈川産業人クラブ 市熱田 五郎 造会長

名古屋産業人クラブ 市熱田 五郎 造会長

大阪産業人クラブ 市熱田 五郎 造会長

東京産業人クラブ 市熱田 五郎 造会長

埼玉産業人クラブ 市熱田 五郎 造会長

千葉産業人クラブ 市熱田 五郎 造会長

産業人クラブ入会のご案内

～ビジネスチャンスを生む異業種交流・研修活動～

入会のご案内

産業人クラブ(旧日本工業会)は昭和30年11月に発足、以来常に時代に即した組織に軌道修正しながら、いつの時代でも中堅・中小企業経営者が一番必要とする課題点とらえ、講演会、研究会、工場見学会、国際交流などを実施するとともに、そのときどきの情報を提供して会員の皆様の経営に役立つような事業を展開して参りました。このご承知のとおり、わが国産業界は、めまぐるしく変化する国際社会のなかにあつて、その動向が世界各国から注目されております。とりわけ最近、経済のグローバル化、情報化の進展などにもとづいて、産業構造の変化もはげしく、的確で迅速な情報の入手が不可欠となっております。

各産業人クラブは全国にある30の産業人クラブ(会員数1800名)と、密接な連携をとりながら、先進的な活動を行っております。

こうした事業は必ず皆様の経営にお役に立つものと思われまふ。皆様方のご入会を心よりお待ちしております。

活動のあらまし

- 講演会の開催
- 経営研究会の開催
- 工場見学会の開催
- 分科会活動の実施

日本産業人クラブ連合会

〒103-8548 東京都中央区日本橋小網町14-1 住生日本橋小網町ビル

日刊工業新聞社内

TEL.03-5644-7284 FAX.03-5644-7249

ホームページで全国のクラブの活動を紹介しています。

<http://www.sangyojin.com>

日刊工業新聞に月1回(予定は第1金曜日)に1ページの産業人クラブ面「かけはし」を掲載しています。過去の「かけはし」もご覧いただけます。